

教育目標	
未来を 心豊かに たくましく生きる 子ども	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 子どもたちは安定感をもって、園生活を送っていた。遊びや生活を通して、相手に自分の思いを出せるようになり、遊びを進めようとする姿が見られた。気の合う友達だけでなく、いろいろな友達と関わる楽しさも感じていた。しかし、子ども同士で意見を出し合うときは自信をもって話せるように、教師の援助が必要である。自信をもって遊び生活できる子どもの育成が課題である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 毎日楽しく幼稚園に通っていて、子どもたちの反応を見ていると、1年を通して子どもたちの成長を感じることがたくさんあった。教職員が些細な話も丁寧に聞いてくれて、親子で安心して通うことができた。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年9月7日	理事
最終評価	令和6年3月12日	理事

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
・遊びや生活での子どもの姿をエピソード研修などで出し合い、発達の姿、環境構成や教師の援助について話し合う。（園内研修の実施） ・部会や架け橋プログラムのブロック会議で公開保育を行い、子どもの育ちを見取り、幼稚園教育の発信に努める。
（取組結果を検証する）各種指標
・子どもが主体的に遊び生活するための環境構成と教師の援助について、エピソードから読み取る研修の実施。 ・公開保育とその事後研修での協議で学んだ内容（環境構成や教師の援助）。 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答。

## 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に活動していると思われるエピソードを出して、学校指導課の指導を受けて1回研修した。安心感を持つための援助、子どもが自ら遊びを進めるための援助、子どもが言葉でつながりを持つための援助について考察した。</li> <li>・6月に竹田小ブロックでの年長児の公開保育（科学センターのごっこ遊び）を行ったところ、お客さんのことを考えて表示をつくったり、その場の状況に応じた言葉をかけたりしていて、人と関わる楽しさを感じていた。製作の段階では子どもの思いを実現させるために教師がアイデアを出して、子どもとともに環境が作られていることが話し合われた。小学校生活科のお店屋さんとの取り組み方の違いも話に出された。</li> <li>・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答は「あてはまる」88%、「ややあてはまる」12%であった。</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソードの内容が、架け橋期のカリキュラムの共通の視点に当てはまっていたので、カリキュラムに反映させた。また、小学校の研究主任、連携担当、1年生の担任に発信することができた。</li> <li>・科学センターごっこについて、小学校では話す言葉などもっと子どもに任せていいのではと、小学校教師の気づきがあった。今後、生活科の授業で幼稚園が協力することができないか、という意見が出た。</li> <li>・保護者が、遊びを通して子どもが育っている（変容している）ことに気づいていることが分かった。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソードや公開保育で学んだことを、記録に残し、架け橋期のカリキュラムを見直していきたい。</li> <li>・生活科の授業内容を幼稚園教師が知る機会をつくる。また、年長児の公開保育の事前研修に小学校の先生にも参加していただき、発達のつながりを意識して保育できるようにしたい。</li> <li>・保護者には日常的に、また懇談会で育ちを発信したい。</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育、公開授業の研究協議の内容を、架け橋期のカリキュラムに反映させる。</li> <li>・生活科などについて小学校との連携がどれくらいできたか。</li> <li>・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中に年齢に合った課題があり、子どもたちにとっては考える楽しみがあって素晴らしいと思う。</li> <li>・特に年長児は入園してからコロナの感染予防対策のためたくさんの規制があったが、残りの園生活を思う存分楽しんでほしいと願う。</li> </ul>

## 最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に幼稚園の公開保育を行い、研究協議で出た意見を追記した。例えば、年長児の保育室の環境が「5」のまとまりが意識できるように遊具や用具が置かれるなど工夫されていることを追記し、そのことが他学年の環境構成にも生かされた。</li> </ul>
---

	<p>・生活科の「いきものとなかよし」（１０月）の公開授業、「もうすぐ２年生」（３月）の単元での交流「にこにこタイム」では、事前・事後の研修を行った。</p> <p>・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答は、Ａ「当てはまる」９４％、Ｂ「やや当てはまる」６％であった。一方教職員の自己評価はＡ７７％、Ｂ２３％であった。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小の公開保育では、事前・事後研修で出された幼稚園の環境構成の工夫（例えば、５のまとまりを意識できる遊具の置き方）をカリキュラムに追記した。カリキュラムの改善内容がが他学年の環境構成や教師の関わりなど保育の改善につながった。</li> <li>・生活科の連携は公開授業や「にこにこタイム」など交流の時が中心であった。他の教科でも連携できることがあると思われる。</li> <li>・保護者は子どもがのびのびと主体的に遊んでいると評価されているが、教職員は保護者ほど高い評価ではなかったことから、保育に改善点があると考えている。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの見直しは、公開保育があるときに主に行った。エピソード研修や園内での研究保育での気づきも取り入れ、保育の質の向上に努めたい。</li> <li>・生活科を始め、国語や算数などで児童が無理なく、楽しんで学べるように、教材研究をしたり、アイデアを出し合ったりして、幼稚園教育への理解を図りたい。</li> <li>・保護者に個々の育ちが伝えられているが、遊びの展開、深まりが十分でないと教職員が感じている。保育所とも連携しているので、例えば同学年の担任同士で保育について話し合ったりして、自分の保育を改善する研修を行いたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のペースに合わせて教員が関わっているので、心も行動も随分落ち着いたと思う。</li> <li>・生活発表会や作品展で、毎年子どもたちの成長に驚かされる。子どもたちがやってみたいという意欲に寄り添い、多くのことを経験させてもらっていると感じる。</li> </ul>

## （２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例研修を行い、子どもの育ちや教師の援助などについて、幼保小で共通理解する。</li> <li>・子どもの交流では、できるだけ事前と事後の研修を行い、交流の成果と課題を考察する。</li> <li>・子どもの育ちにつながる教師の援助や環境構成について研修し、カリキュラムを見直し改善する。</li> </ul> <p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ち、教師の援助などについて事例や公開保育・公開授業を通しての研修実施。</li> <li>・架け橋期のカリキュラムの見直しのための研修実施</li> <li>・保護者アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」の回答</li> </ul> <p>中間評価</p> <p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園での事例研修を８月に１回、公開保育２回、公開授業２回行った。生活科「いきものとなかよし」の事前研修に幼稚園が参加した。</li> </ul>
---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 架け橋期のカリキュラムについて、ブロック会議後及び、8月に幼保小で1回、9月に幼保で1回見直しを行った。</li> <li>・ 保護者アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」の回答は「あてはまる」88%、「ややあてはまる」12%であった。</li> </ul>
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園の事例研修ではカリキュラムの共通の視点である「安心感」「主体性」「つながり」に関連する事例が出された。この研修を通して3歳児では安定感を持つための教師の関わり、4歳児では友達とつながるための教師の関わりと環境構成、5歳児では主体的に活動するための教師の援助と環境構成を考察し、指導課参与の助言を受けた。小学校、保育所には生活科と関連がある5歳児のカレーパーティごっこの事例を紹介したが、協議の時間が取れなかったことが課題である。</li> <li>・ 公開保育や公開授業後の協議で出された教師の援助や環境などを、カリキュラムに反映させた。また、幼保小で1学期分のカリキュラムを見直す機会を持ち、共通理解を図った。</li> <li>・ 保護者アンケートの回答は例年7割ほどが「あてはまる」という回答であったが、今年度はほぼ9割にアップした。幼保小の交流行事が実施されたためと思われる。</li> </ul> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校や保育所の先生方に読みやすい事例の書き方（文章は短く写真を載せるなど）を学び、今後、幼保小で事例研修ができるように、年間計画に入れたい。</li> <li>・ 公開保育や公開授業について「つながり」と「主体性」を視点にして協議し、その内容をカリキュラムに反映させる。また生活科では幼稚園の教材を小学校に貸し出すなど、1年生の発達に見合った指導になるように幼小で考える機会を持つ。</li> <li>・ 交流についての担任の話、ホームページや終業式で、保護者へ交流の様子や子どもの育ちを発信を続ける。</li> </ul> <div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開保育や公開授業を通して、子どもが友達とつながり、主体的に活動するための教師の援助や環境構成を考察する研修の実施。</li> <li>・ 架け橋期のカリキュラムの見直しのための研修実施</li> <li>・ 保護者アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」の回答</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度年長児クラスが少人数なので、保育所の友達や小学生と触れ合うことができる環境はありがたいと思う。今後も続けてほしい。</li> </ul>

#### 最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月にポップコーンパーティの準備の公開保育の事前・事後研修、また2月に生活科「もうすぐ2年生」で幼稚園・保育所の友達と交流する「にこにこタイム」を行うにあたり、事前・事後研修を行った。</li> <li>・ 公開保育や公開授業後の研究協議の内容を、カリキュラムに反映させた。また、保育所と話し合い、同じ年長児でも指導内容に違いに気づいたり、教材のアイデアを交換したりすることができた。</li> <li>・ 保護者アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」の</li> </ul>
--

<p>回答は、A「あてはまる」 81%、B「やや当てはまる」 19%であり、教職員の自己評価は A100%であった。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年には主に授業・保育の見合いで互いの教育を知り、理解を図ることができた。11月の公開保育、2月の交流では事前と事後に研修をし、子どもが主体的に活動するための環境や、事後では主体的と思われた姿を出し合い、研修できた。幼稚園の教師は今の活動や経験が、小学校でどのように行われるのか見通しを持ったり、環境構成を見直したりするようになった。小学校の教師は幼稚園での経験を知ることで、それを踏まえた授業の展開を考えられるようになった。</li> <li>・ 就学前のカリキュラムを見直すのに、保育所の保育士と話しあい、保育所では積極的に食育の活動が取り入れられ、それが家庭への支援にもなっていることがわかった。また、発表会での楽器遊びに取り組むのに、子どもにわかりやすい楽譜の作り方の工夫を出し合い、教材研究ができた。</li> <li>・ アンケート結果が保護者と教職員で差が出たのは、教職員の懸命の取組の様子が十分に発信できていないからだと思われる。保護者評価が例年より高いのは、子ども同士の交流、教員同士の研修が行われていることをホームページや懇談会で発信したためだと思われる。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開保育や公開授業と共に、事例の書き方を勉強し、幼稚園教育の発信を行うとともに、幼保小で主体性を育てる研修を行いたい。</li> <li>・ 保育所と幼稚園でカリキュラムだけでなく、日常の保育の話を言い、主体的な子どもを育てるための保育の在り方を研修したい。</li> <li>・ 架け橋の研究で学んだことを公開保育や交流の様子を通して、保護者に発信したい。年長児だけでなく、他の学年の保護者が集まる機会をとらえ、行いたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月に4歳児の交流があり、たくさんの友達と遊ぶことができた。交流を続けてほしい。</li> <li>・ 小学生と交流したり、運動場で遊んだりして、小学校の場に慣れてきていると思う。安心して進学できることがありがたい。</li> </ul>

### （３）預かり保育に関して

<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者や家庭の背景を把握し、預かり保育を子育て支援のツールの一つとして利用できるようにする。</li> <li>・ 異年齢で一緒に遊べる遊具、遊びを預かり保育担当者と考え、子どもが楽しく過ごせるようにする。</li> </ul>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育の利用率</li> <li>・ 預かり保育の指導計画の見直し</li> <li>・ アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答</li> </ul>

### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育の利用率は学年により差があり、3歳児が常にクラスの半数以上参加している。</li> <li>・ 就労で利用される3歳児保護者が多いため、その配慮や遊具、弁当日でない日の業者弁当の導入について指導計画に入れる。</li> </ul>
--

<p>・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答は「あてはまる」が94%、「ややあてはまる」が6%であった。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児の利用率が高いのは、子どもが慣れてきた様子を見て、パートに出る保護者が増えているためと考えられる。実態として預かり保育に参加するのを嫌がる子ども、遊具に飽きて集中して遊べない子どもへの対応が必要である。</li> <li>・アンケート結果より、保護者はほぼ全員が安心して預かり保育を利用していることがわかる。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児向けの遊具の購入や3歳児参加の割合が高い日のボランティアの配置を行う。</li> <li>・保護者が働きやすい環境づくりを行う。</li> </ul>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具の購入やボランティアの活用状況</li> <li>・長期休業中の業者弁当の実施</li> <li>・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>朝8時からの預かり保育は働く母親にとってありがたい。幼稚園で朝8時から預かってもらえることを知らない人も地域にいるだろうから、地域の集まりの時に知らせたい。</p>

#### 最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成する楽しさが感じられる遊具や3歳児向けのカードゲームなどを購入し、試したり考えたりしながら子どもたちが喜んで使っている。ボランティアは月2回、3歳児の参加が多い時に来ていただいた。</li> <li>・冬休みと春休みは弁当業者が休みの期間であったため、実施できなかった。</li> <li>・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答は、A「当てはまる」97%、B「やや当てはまる」3%、教職員自己評価はAが100%であった。</li> </ul>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児向けの新しい遊具や既存の遊具の数を増やしたりして、他の学年の子どもたちも一人一人が遊びを楽しんでいた。ボランティアには、流れがわかりにくい子に個別に関わっていただき、安定して参加できるようになった。</li> <li>・保護者は概ね安心して預かり保育を利用していると分かった。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児など流れがわかりにくい子どもにはボランティアの教員だけでなく、教えてあげる年長児もいたので、子ども同士の育ちあいができるように指導したい。</li> <li>・業者弁当を預かり保育のある日はできるだけ選択できるようにして、安全面に配慮しながら保護者が利用しやすいようにする。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業中も積極的に預かり保育をおこなってもらい、働く保護者が大変助かっている。保護者間で預かりの時間を知らせ、入園につながると思う。</li> </ul>

価	
---	--

#### （４）子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で喜ばれる活動を（てんとうむし広場の開放）多く取り入れる。</li> <li>・「ほっこり子育てひろば」で困りや喜びなどを共有し、保護者が安心して楽しめる時間になるように努める。</li> </ul>
（取組結果を検証する）各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児クラスの戸外での活動回数。</li> <li>・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数。</li> <li>・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答</li> </ul>

#### 中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児クラスで５月、６月、９月に１～２回、戸外やテラスで遊ぶ計画を入れた。</li> <li>・ほっこり子育て広場は、５回実施、参加者数は２０名であった。</li> <li>・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答は、「あてはまる」が９１％、「ややあてはまる」が９％であった。</li> </ul>
--------	---

自己評価	分析（成果と課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんとうむし広場で砂遊びをしたり手押し車を押したり、テラスで水遊びができるようにしたところ、それを楽しみに来園する親子がおられた。</li> <li>・誕生会後のほっこり子育てひろばは、就労の保護者には参加できにくい時間帯であり、参加する人の方が少ない。「スマホとの付き合い方」のほっこり子育てひろばでは、インストラクターの進行で、和やかに、テーマに沿った話し合いができた。</li> <li>・預かり保育、業者弁当、未就園児クラスの実施で、保護者は概ね満足している。保護者の要望であった業者弁当回数を週４回の選択制、夏季休業期間の７月も実施し増やした。</li> </ul>
	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児クラスでは担当者と相談し、戸外や空いているときは遊戯室で遊ぶ機会をつくり、親子で楽しめるような場を提供する。</li> <li>・ほっこり子育てひろばは継続することが大事で、それぞれの保護者の子育ての実態がわかるので、参加者は少なくとも続ける。</li> </ul>
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児クラスの戸外での活動回数とてんとう虫広場の整備</li> <li>・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数</li> <li>・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答</li> </ul>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	<p>未就園児クラスに参加する保護者は、園の雰囲気を感じながら親子で過ごしている。未就園児クラスに参加しているとき、園の先生たちが子どもと遊びを楽しんでいるか、先生同士の接し方、親との接し方など、複数の園でも見たが本園がずば抜けて雰囲気が良かった。当時、年長組の担任が未就園児に優しく関わっていた思い出がある。これからも温かな竹田幼稚園であってほしい。</p>

#### 最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児クラスの親子がてんとう虫広場で遊べる内容を、月１～２回設定した。</li> <li>・ほっこり子育てひろばは６回実施、参加者数は１６名であった。</li> <li>・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答は、Ａ「当てはまる」８８％、Ｂ「やや当てはまる」１２％で、教職員の自己評価はＡが１００％であった。</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の天候により３０分～５０分と幅を持たせ、戸外で体を動かして遊びたいという子どもの気持ちりが満足できるようにした。</li> <li>・ほっこり子育てひろばは、先輩の母親の話を第１子の保護者が聞くことができ、例えば就寝・起床時刻を聞いて、「それぐらいがいいのか」と我が子の生活習慣を振り返る機会となった。また、講師を招いてスマホとの向き合い方を考えるほっこり子育てひろばを行い、他の家庭の工夫を知ることができた。</li> <li>・アンケート結果が保護者の方が低いのは、業者弁当の実施回数や未就園児の保育に関することであると思われる。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・てんとうむし広場が雨で使えないときは、遊戯室で遊ぶなどして、子どもが体を動かして遊べる場を提供したい。</li> <li>・ほっこり子育てひろばは、参加者が少なくても、意欲をもって参加する保護者がおられるので、続けたい。テーマを考えるのに、どんなことが知りたいか、保護者の意見を聞きたい。</li> <li>・安全面に配慮して業者弁当を、半日保育の日も実施して、保護者の負担軽減につなげたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択制の弁当の回数を増やして毎日利用できるようにしてほしい。</li> <li>・未就園児クラスの活動内容を、園庭やてんとうむし広場など選んで遊べるように、見直したらどうか。</li> </ul>

## （５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会で園の教育目標など示した文書を配布、説明する。</li> <li>・幼稚園評価の結果について、運営協議会理事の意見を参考にしながら、評価委員会で指導計画を見直す。</li> </ul>	
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会での教育方針の説明の実施、理事の幼稚園参観（運動会など）についての意見聴取。</li> <li>・幼稚園評価結果についての評価委員会の実施</li> </ul>	

### 中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・６月２３日学校運営協議会で、教育目標と園の実態について発信した。</li> <li>・評価委員会を行い、保護者評価と教職員評価の結果を見て違いや今後の課題など出し合った。</li> </ul>	
自己	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標については概ね理解していただけたと思われる。園児数が少ないことは理事の方々も、</li> </ul>



評価	<p>ご存じであるが朝の預かり保育や業者弁当実施のことは知らない方が多く、発信の場になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価委員会では保護者評価をもとに学級経営を振り返り、3歳児では生活習慣を身につけるため個別の関わりを継続すること、4歳児では保護者との連携を大事にしたいということ、5歳児では戸外で遊ぶ経験を増やし、友達と遊びが進められるようにすることが課題であるという意見が出た。担任が大事に取り組んでいることは保護者に概ね伝わっていることが結果からわかった。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会理事に運動会を参観していただいたり、園の教員が地域のお祭りに参加したりして、子どもの姿と幼稚園教育の大切さを発信する。</li> <li>・保護者の願いを身近に感じられる担任の意見を、園の教育方針にそって考え、子どもが豊かな経験をして成長できるようにしたい。</li> </ul>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会理事の幼稚園参観（運動会など）についての意見聴取。</li> <li>・幼稚園評価結果についての評価委員会の実施</li> </ul>
学校関係者評価	<p>幼保小での交流のほか、お茶会体験が予定されていて今年は地域の方と触れ合えることができ、楽しみである。</p>

#### 最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会と生活発表会を理事2名が参観されたが、意見はお聞きできなかった。</li> <li>・評価委員会は1度、結果を見て感想や意見を紙に書いて出し合った。</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事の方は笑顔で演技を見てられたが、感想や意見が聞く時間が取れなかったことが課題である。</li> <li>・お茶会ができたことは子どもの経験になり成果が感じられたが、前期にできていなかったこと（絵本の自由貸出日の設定）に気づくなど、課題が出された。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の参観の際、アンケートを事前に渡しておき、意見がいただけるようにする。</li> <li>・評価委員会のメンバーが担任の教員であるが、他に、子どもに関わる保健職員も加わると、より評価結果の見方が広がると思われる。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶会を子どもたちが楽しみにしていて、喜んで参加していた。地域の協力がないとできない行事で、来年度も続けてほしい。</li> </ul>

#### (6) 教職員の働き方改革について

<p><b>重点目標</b></p> <p>業務の効率化、精選を行い、教職員が見通しを持って仕事をする。</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日の設定</li> </ul>

・校務支援員の活用，および担任会の実施
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退勤の回数（月 1 回目標）</li> <li>・ 校務支援員の業務内容の見直し</li> </ul>

## 中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月 1 回の幼稚園教育研究会部会の日は、定時退勤を行うことができた。</li> <li>・ 校務支援員には保育の見通しをもって教材準備をしてもらうようにした。担任会は月 1 回持った。</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部会の日午後は園で仕事ができないので、その週は特に仕事の見通しをもっておく必要がある。その時にできないことを校務支援員にお願いして、仕事がスムーズに進むようにした。特に畑の整備、七夕製作の準備などは担任は時間的に厳しいのでお願いできて助かった。</li> <li>・ 担任会は職員会の時間短縮につながっている。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教育研究会部会の日ほかに、定時から 30 分以内に帰る日を各自が意識して取り組む。</li> <li>・ 校務支援員の計画的な活用と、月 1 回の担任会の実施を進める。</li> </ul>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退勤ができた日数（1 か月）</li> <li>・ 校務支援員の活用状況と月 1 回の担任会実施</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>アプリが導入され、先生とのコミュニケーションが減ると心配していたが、変わりはない。園と連絡を取り合い、子どもの育ちを支えたい。</p>

## 最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退勤について、月に 1 ～ 2 回できた教員と、できにくかった教員がいた。</li> <li>・ 校務支援員には前期に引き続き、十分できないことを助けてもらい、教員の気持ちが落ち着いていた。担任会は月 1 回行い、職員会が短時間で実施できた。</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勤務時間は、各教員の仕事の量や仕方が違うのでそれぞれであるが、ストレス過多になっていないか見守る必要がある。</li> <li>・ 教材準備は先を見通して校務支援員に頼んでいるが、パソコンを使ってするような仕事も依頼できないか、内容を考えたい。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教頭や年長担任など、一人に業務が集中していないか、他の人でもできないことがないか、業務内容を見直す。</li> <li>・ アプリでの給食注文やその集計など、校務支援員に頼める事務の仕事を依頼する。確認は管理職が行う。</li> </ul>

学  
校  
関  
係  
者  
評  
価

学校関係者による意見・支援策

日々の保育の様子を聞いたり、幼稚園アンケートの結果を見たりすると、先生方が子どもと真剣に向き合い、どのように教育活動を改善すればよいかと、熱心であることがわかる。